

関係者一同大重で準備を始めました。反面先生には戦場にお

とらぬ強行動。金曜日之夜東京発岡山に到着して高松に渡り、急行で夕方やつと松山着、翌日曜日九時から講演。午後はお茶の水、同窓会の方々との会合その夜高浜から乗船神戸に向う。月曜日の朝神戸から特急で夕方東京着翌火曜日には学校へ必ず出ねばならないと云うこと。地方の幼児教育のためこんな御迷惑をおかけして先生に御無理おさせ申したことが大変心苦しく思われてなりません。いく度も先生とそのお話をいたします度に、「あの時はああするより外に方法がなかったのだね」とおっしゃって下さる程私は、先生に御無理お願いしたことを御病氣の原因の一つにもなったのではなからうかと思つて悲しくなつて参ります。何と御詫び申上げてよいやら言葉が出ません。全国の先生方が先生をおしたいして、御話を一寸お聞かせして頂いたので結構だ。先生の御顔を一目みせてもらつてもそれで保育者になれるのだと云う若い方々の御熱意に、先生に御無理お願いしましたことが濟まなかつたと泣けてなりません。「あの頃は僕も大変勇ましかつたのよ」と云つて笑つていて下された先生。今いよいよ御別れて私共はどうした所へ進んでよいかと迷うようではございませが、きつと正しい幼児教育、先生の御教を守つて行く現場楽しいお園をどうぞ御見守り下さい。きつと先生の御意志のあるところを通つて参ります。そうすることによって、先生

の御めい福を祈り上ます。

(今治市昭安幼稚園長)

倉橋惣三先生のこと

津守 真

倉橋先生はこわい所のある方である。

こうして倉橋先生のことをいろいろ考えていると、先生の温和な優しいお顔と、温かい心づかいの数々を先ず思い起す。がそれとともに、一点ぴりりとする秋の空気のような感觸を思う。心から幼な児と母性の味方であつた先生。その先生獨特の柔らかい表情と言葉の奥に、古武士を思わせる厳粛な氣持を私は感じていた。それは何かことをきめるとき、行動にうつそうとするときどきに、私の予想せぬ質問や表情となつてあらわれ、しばしばぎくりとさせられたのである。

何でそんなにこわく感じたのか。それは先生がいつもものごとの本筋を捉えておられたからだと思ふ。心の奥底で、真

実なことや正しいことについて熱心でないことを嫌っておられたからだと思う。つい忙しさにまぎれて、根本的な筋道を考えずに先生の前に出る時には、何か見すかされるような感じがして、先生をこわく思ったのである。

先生は日本の子どもの幸福を心から思われ、幼稚園を愛して、一生をそのことに捧げられた。ユーモアと詩情にみちた先生独得の表現の中に、何ものも犯すことのできない一筋の真情がある。その嚴肅に生きられた生涯が、この道に生きる人びとからこのように敬慕される所以であろう。この道を多彩に生きぬかれた先生は、実に先生そのものであり、他の何ものでもない。子どもの一人一人が一個のかけがえのない人間であると教えられたように、倉橋惣三先生は倉橋惣三先生である。幼稚園雑草、育ての心、保育法真諦、フレーベル、子供讃歌と流れ来り、完結した倉橋惣三先生である。

ただ子どものことを思い、純粹にそのことのために力を尽くすということは、後の世代の人々にいつまでも伝えられてゆくであろう。それぞれ表現は異なり、働らきは違っても、そのことは先生だけのものではなく、私たちすべてが共通にもつべきものであり、先生の遺志の伝えられてゆくこの道である。

追憶

野口 明

此の春「子供讃歌」をいただいたので、早速拜読して感想を御送りしたところ、それから一月程して御凶音に接したのであった。

私は先生と学問的交渉を持ったのではないから、斯界の權威者として尊敬はしていたが、此の御自伝によって初めて其の然る所以が判った。何新聞であったか「先覚者」の語を用いていたが、先生は明治が生んだ各方面の先覚者、先駆者の一人であったと私にも思われる。

先生は教育界に身を置かれたが、本質的にはむしろ芸術家に類して居られはしなかったか。先生の生涯の御仕事の動機は子供讃歌にあった。学問とか教育とかいかめしい道具や仕事着は持たれたが、先生の真骨頂は子供と一緒に遊ぶところ